

Asia Trends

マクロ経済分析レポート

中国経済——豪雪で経済損失は3千億円超 ～春節と重なり、消費者物価上昇が加速～

発表日：2008年1月30日（水）

第一生命経済研究所 経済調査部

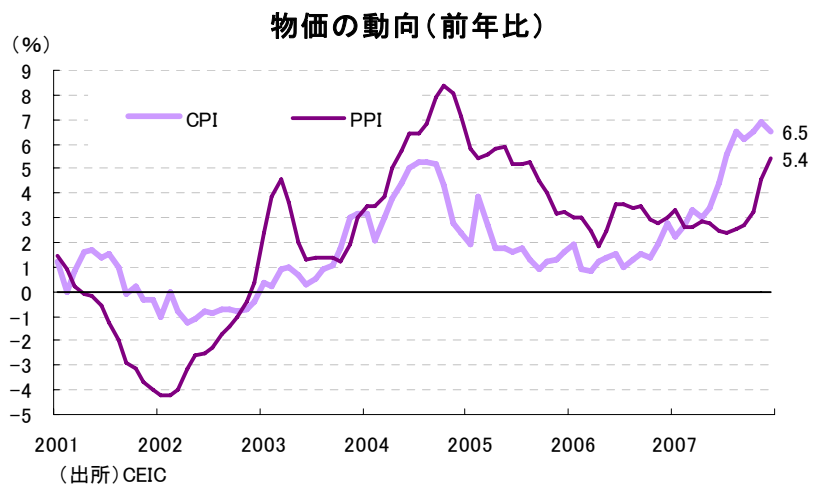
担当 エコノミスト 董 氷（とう ひょう、03-5221-4527）

●中国は1月10日から中部を中心に50年ぶりの大雪に見舞われており、経済への悪影響が懸念されている。中国民政部によると、28日までの大雪による被害は安徽、江西、河南など14の省（区・市）に及び、計7786.2万人以上が被災した。このほか、農作物被災面積は4219.8千ヘクタール、家屋損害は39.9万棟となるなど、冰雪害による直接経済損失は220億9,000万元（約3,300億円）に上っている。また、工場倒壊や部品供給の停滞など、各種企業活動に影響が出たばかりでなく、2月7日の春節（旧正月）を前に帰省客にも影響が及んでいるようだ。これを受け、温家宝首相は交通網や電力供給の早期復旧に全力を挙げるよう指示した。

●一方、2007年の石炭の在庫率は2005年以来過去最低水準となっており、今年の中国経済の大きなリスクの一つになっている。もともとこの時期には、春節での需要の増加が見込まれるが、豪雪、石炭の供給不足、電力不足、運輸麻痺といった要因も加わり、今後食品のインフレ圧力はいっそう高まることが予想される。



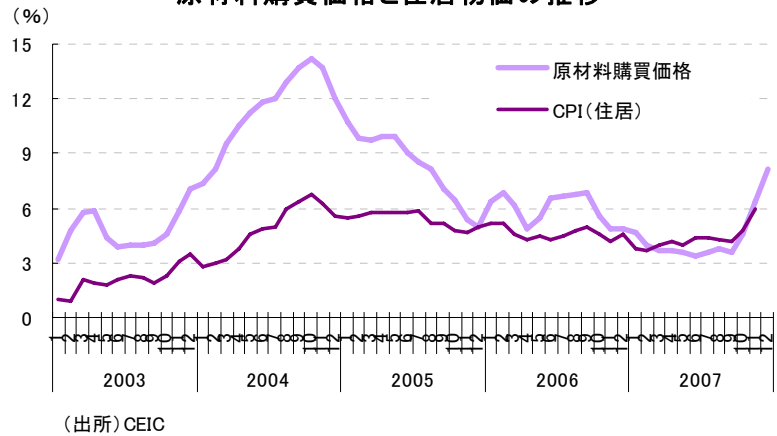
●中国の報道によると、湖北省武漢市では今回の豪雪のため、チンゲン菜が元値段の1.4元/kgから6.0元/kgと4倍になるなど生鮮野菜価格に急騰がみられ、こうした動きは香港にも広がっているようだ。統計局によると、すでに12月の生産者物価は前年比+5.4%（11月：同+4.6%）、12月の原材料購買価格は同+8.1%（11月：同+6.3%）と先月からそれぞれ加速しており、生産者物価と原材料購買価格の高騰はCPIに影響し始めている。



●このように、生鮮野菜や肉類など食品価格の高止まりが見込まれるうえ、運輸価格の高騰や石炭不足とも相まって、1月の消費者物価指数は前年比+7%以上と過去11年の記録を更新する公算が大きい。

もともと、米経済の減速や、さらなる悪天候の影響によって实体经济に減速感が出てくると、中国の引締め政策は春先もしくは夏先に緩和政策に入ると見込まれる。仮に1月のインフレ率が高かったとしても、利上げに動く可能性は限定的だと思われる。

原材料購買価格と住居物価の推移



以上